



目次

- 2 ユメセン～夢の教室～
- 6 平成 28 年度 財政情報
- 8 まちの出来事・協力隊がゆく
- 10 お知らせ
- 11 募集
- 12 イベント
- 13 健診・子育て・健康相談情報
- 14 健康・福祉
- 15 健康づくり応援通信・掲示板
- 17 叙勲・相談
- 18 スポーツ・文化
- 20 図書館だより
- 21 市長室・成羽病院通信
- 22 市民のページ

表紙

5月16日、「ユメセン～夢の教室」が巨瀬小学校で行われました。杉浦双亮先生（元野球選手）と一緒に体を動かすゲーム、教室での授業を通じて、子どもたちは夢を持つことの大切さを学んでいました。

人口

	人口・世帯数 (人・世帯)	前月比 (人・世帯)
総人口	31,543	-40
男性	15,153	-19
女性	16,390	-21
世帯数	14,594	-8

(平成 29 年 5 月末現在・外国人含む)



ユメセン ～夢の教室～

夢をかなえるために努力してきたアスリートや元選手が、「夢先生」として全国各地の小・中学校に赴き、「夢を持つことやそれに向かって努力することの大切さ」を伝えていく「夢の教室」。

市はこの取り組み（公益財団法人日本サッカー協会「JFA ころのプロジェクト」）に平成 23 年度から参加しています。
バレーボールで活躍した佐伯美香さん、山本隆弘さん、元水泳選手の山口美咲さん、元新体操選手の坪井保菜美さんをはじめ、今年も 7 人の「夢先生」が、小・中学校にやってきました。

☎ スポーツ振興課 ☎ (21) 0425



落合小学校の教壇に立つ山本隆弘さん

ユメセンとは？

「子どもたちにサッカーを教えるだけではなく、子どもたちの人間性を育むことにも目を向けていこう」。「いじめや自殺をしない、強い心を持った子どもを育てるのに、サッカー界が貢献できることがあるはず」。

そう考えた日本サッカー協会（JFA）は、平成 18 年に「JFA ころのプロジェクト」を立ち上

げ、翌 19 年、アスリートや元選手が全国各地の小・中学校で子どもたちに授業を行う「夢の教室」をスタートしました。

サッカーの J リーグやなでしこリーグの選手、OB・OG に加え、今では、他のいろいろなスポーツで活躍した「夢先生」が教壇に立っています。

プロジェクトではこの取り組みを広く展開するために、全国の自治体と連携を進めており、現在では国内 153 の市区町村と協定を締結しています。

市はこの取り組みに平成 23 年度から参加し、これまでの 7 年間で 53 人の夢先生が、約 2500 人の子どもたちとふれあい、自身や子どもたちの「夢」について、熱い授業を展開しています。

夢の教室に参加した児童・生徒からは、「授業が楽しかった」「夢先生にも大変だった時期があったのだから、辛くても頑張ろうと思った」「家族や友人への感謝を忘れないようにしようと思った」「夢に向かって頑張ろうと思えるようになった」などの前向きな感想が多く聞かれています。

「夢の教室」カリキュラム

「夢の教室」の授業は、前半の「ゲームの時間」と後半の「トークの時間」で構成されています。それぞれの授業の運営は、自身の経験を通じて子どもたちにメッセージを伝える夢先生のほか、ゲームの時間の進行をメインに授業全体をサポートするアシスタント（スポーツ経験者）、事前準備と授業当日の現場責任者となるディレクターの 3 人で行われます。

ゲームの時間 (35分)

子どもたちと体を動かし、緊張をほぐしながら、仲間と協力すること、相手を思いやる心を伝えます。

①自己紹介 (5分)

②サブゲーム (15分)

③メインゲーム+まとめ (15分)

トークの時間 (55分)

夢先生の体験談をもとに、夢を持つことの素晴らしさ、それに向かって努力することの大切さを伝えます。

- ① 夢先生の夢トーク (35分)
- ② みんなの夢 (15分)
- ③ エンディング (5分)

また、授業のほかに、児童・生徒、学校、夢先生それぞれにアンケートをとり、その内容をフィードバックしていくことで、プロジェクトの質は常に改善し、向上しています。

児童・生徒が自身の夢と授業の感想、夢先生へのメッセージを記入した「夢シート」はいったん夢先生の手に渡り、夢先生から一人ひとりへ手書きの返信メッセージが書かれた後、子どもたちのところへ返ってきます。



高梁中学校の生徒たちとゲームを楽しむ稲若健志さん



川上中学校で生徒一人ひとりと話す山口美咲さん